

# 小田原ガイド協会だより

## OGG 第89号

### NPO法人 小田原ガイド協会

小田原市城内 3-22（〒250-0014）  
TEL.0465-22-8800/FAX.0465-22-8814

<http://www.odawara-gaido.com>

## 小田原城跡に古図も入った新説明板登場！ — 城址公園内・総構のガイドでも活用しよう —



①馬出門 土橋前



②馬出門 前庭



③馬出門 枡形内



④馬屋曲輪 櫓台跡



⑤馬屋曲輪 住吉堀



⑥銅門 枡形内



⑦銅門広場



⑧二の丸広場



⑨二の丸広場トイレ前



⑩常盤木板



⑪本丸広場 売店前

### 【本丸広場】

天守閣の変遷がわかりやすく説明され、加藤図・正保図・文久図の絵図も掲載されている



▲『小田原城天守閣』説明板



⑫本丸広場



⑬御用米曲輪 北西土塁



⑭本丸広場 天守閣下



⑮藤棚バス駐車場



⑯ポケットパーク

\*本ページ掲載説明板等の位置情報を協会事務所に掲示しています（10月31日まで）

今回改めて小田原城の見所を伝えるため、説明板などの新設や更新を行いました（本年三月）。城址公園に説明板十六枚、案内板七枚、標柱一本を、総構には説明板三枚を設置しました。

説明板の作成に当たっては、専門的になりすぎないように心がけ総体的に古絵図や写真を載せるなどして、分かり易いものになったと思います。英文の併記では日本語独自の表現の訳に苦労しました。

また、史跡の景観を損なわないように、大きさや色、設置場所などにも配慮しました。引き続き、小田原城の魅力を伝えていきたいと考えています。

（小田原城総合管理事務所／藤間副所長談）

### 【総構】

説明文・マップ・攻防イメージ図・合戦分布図を掲載



▲『総構』説明板  
⑰⑱⑲三箇所共通



⑰城下張出



⑱山ノ神堀切西



⑲大堀切西堀

◆企画ガイド◆

新緑の小田原・里山  
「荻窪用水」を歩く

小菅 悟志

私の生まれ育った西三河は、緑豊かな田園の続く、まさに古く、印象に残る原風景そのものである。明治用水完成以前の碧海台地は水に恵まれず、開墾の進まない草野が広がっていた。水の確保に苦勞し農民同士で水争いが起こることもしばしばであったという。江戸時代末期この地の農民の苦境を救うため、矢作川の水を導き大規模な新田開発が計画された。荻窪の地と全く同じである。

そんな原風景をここ荻窪用水の地に重ね合わせ、小田原・里山の自然の景観に胸を膨らませた。

コロナ禍での綿密な対策を講じ、協会員スタッフの支援を受け、お客様十名と妙覚寺を出発した。一〇分足らずで辺りはもう里山の原風景。萬松院川沿いに用水の恩恵を被った棚田が現れてきた。棚田には細かな水路が走っているはずで私同様お客様も血眼になって探し求め、ようやく見付けること

ができた。感動の一瞬だ。萬松院を過ぎ、吹き抜ける風を感じながら、箱根連山を背景に新緑も映える荻窪用水本流の水面が飛び込んできた。用水を目のあたりにし、物語風に二百年前の困難極まる大事業の話をする、お客様は熱心に聞き入ってくれた。これも下見を含め現地調査を何度となく重ねた御蔭である。



用水が完成する過程で「あんな貧乏村には嫁にやれぬ。娘が苦勞するだけだ」という話が残っているが、お客様から「貧乏ではない。朝から晩まで親にこき使われ、農作業・子育てと休む暇は無い」と教えられた。水田から改良された野菜畑を眺めながらお客様と一緒に、日本の農業の将来を語り合える貴重な時間が持てる程だった。

用水と荻窪川合流地点では段々状に流れ落ちる満々の水量に歓声が沸いた。圧巻の光景である。ここからは支流である板橋用水・掘り割り溝の土手路を進んだ。一ヶ月ほど前歩いた時は除草も行き届いた整備された路であったのに、今は草茫茫々。この時期、草木の成長がいかに早いかと驚かされる。

さあ、あとゴールまで一キロ弱。里山を離れなだらかな下り坂が続く、皆軽やかな足取りでその先に待つ板橋の「古稀庵」を目指した。山縣有朋公が自費で荻窪用水から取水し、和風庭園を配する別邸である。お客様のほとんどが初めての訪問であり、涼しげな力動感あふれる滝とせせらぎの響きを満喫しながら、庭園の素晴らしさに酔いしれているようで、紅葉時期の写真を見せた所為か、「素晴らしい。秋にはもう一度、必ず訪問したい！」と全員が感嘆の一言。

お客様は皆、満足ではなく大満足の様子。文化遺産・自然遺産・絶景と申し分なし。最も満足したのは私自身であったかもしれない。惜春の定番コースである「荻窪用水」、まさに「いいとこどり」のこのコースに導いてくれた先輩たちに感謝である。

◆企画ガイド◆

箱根・堂ヶ島溪谷  
ぐるっと散策

畠山 義彦

コロナ禍での開催で密にならないよう、またなるべく多くの方に参加していただけるよう、今回は六月十八日と二十四日の二回に分けて実施しました。参加者はそれぞれ二十四名でした。

今回のコースの目玉は何といっても初夏の堂ヶ島溪谷に咲く紫色の可憐な花・イワタバコです。このイワタバコは岩壁に生え、葉がタバコの葉に似ていることからついた名前です。三月初めのこの企画の初回ミーティングのときから、六月の本番当日にイワタバコが咲いているか心配でした。三月の下見ではイワタバコの葉を探すのに皆苦勞しました。四月の下見では、イワタバコの葉を探すのに慣れ、容易に見つけることができましたがまだチラホラしか、葉は出ていません。こんな状態のお客様を満足させることができるのだろうか、不安が募ってきました。



しかしそんな不安も五月末の下見で吹き飛びました。あちこちで大きく育った葉や花の咲いている株も確認できました。

そんなわけで、本番当日は見事に咲いたイワタバコをお客様に見ていただくことができました。



この企画ガイドを実施するにあたり、事前に配られた勉強会資料に、万葉集で柿本人麻呂がイワタバコについて詠んだ歌が紹介されています。

山ちさの白露しげみうらぶるる  
心も深くわが恋やまず

山ちさが露に濡れた重みで垂れ下がっているように、しよんぼりとうなだれてひたすら恋続ける私ですといった意味です。

資料の説明では山ちさとはイワタバコのこととありますが、古語辞典で調べてみるとエゴノキとあります。また江戸時代の万葉学者

がこの歌の山ちさの脇に赤筆でチサノ木（エゴノキのこと）と書いているのを見つけました。

この歌の山ちさは、イワタバコではなくエゴノキではないかと疑問を抱いたとき、ふと牧野富太郎の著書である「植物記」に、イワタバコの記述があることを思い出しました。そこにははつきりと万葉集のこの歌の山ちさはエゴノキではなく、イワタバコであると書かれていました。エゴノキの白い花に白露がついても目立たないし、その重みで花が垂れるといったもエゴノキの花は元々下向きに咲いている。イワタバコの紫色の花であれば白露も目立つし、その重みで小さな花が垂れるのもうなずける。日本の植物学の父である牧野富太郎の言葉なので、この歌の山ちさはイワタバコで間違いないと確信しました。

そんな話を盛り込みながらお客様へガイドしました。お客様からは「良い季節に丁度盛りのイワタバコを見ることができてうれしかったです」、「植物の名前・性質はとても勉強になりました」などの感想をいただきました。お客様の声を励みに今後も活動を続けていきたいと思えます。

今回の街歩きは賛助会員のお店を訪問し紹介、その行程で名所旧跡をガイドするコースです。小田原駅から、星槎城山トンネルを通り、山角天神社、対潮閣跡と旧跡を巡った。皆さん興味深く見て回り、スマホでパチリ!!

そして最初の賛助会員店「箱根屋酒店」。大正二年創業の老舗で、現当主四代目は、ワインのソムリエ資格を持ち、全国の蔵元から有名無名を問わず美味しいと感じたお酒をリーズナブルな価格帯を中心に取り揃えているこだわりの酒店です。奥様からのお店の特徴やお酒の紹介等を聞き終わり、一人がお酒を手にとると、次々と買物、リュックに詰め、笑顔で「ありがとう」とご挨拶。

次は「志村屋米穀店」。

明治二十年創業、今年で百三十年目。志村代表に併設された工場も案内して頂



街歩き企画ガイド

地元小田原酒・米の名店を巡る

土井 正代



感動してました。五代目店長からは、自社農場で、農薬・化学肥料不使用で育てたお米「休耕田復活米」を美味しいとリピーターが増えているとのことのお話を伺った。店内には田圃の写真が展示され田圃アートも楽しそう。店

長の説明が終わるとここでも買物ツアーに。志村代表よりお土産とバラの花を手渡され、感激！ありがとうございました。

参加者から「知らない情報や楽しい買物も出来て良かった」と言ってもらった。お忙しいなか、快く受け入れて下さった二店舗の皆様には心よりお礼申し上げます。



# 小田原城址の野鳥

## 第一回 野鳥観察・基礎編

畠山 義彦

(技術士:環境部門)



小田原城址周辺をガイドしていると、様々な野鳥に出会うことがあります。そんなときお客様から「あの鳥はなんですか?」と聞かれることもあるかと思えます。皆さんはどう対応していますか。「あの鳥は太っているので、相撲トリです」とか「あの鳥は怖い顔をしているので、借金トリです」と答えるわけにもいかず、困ってしまった経験をお持ちの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

そこで今回から四回にわたり、日本野鳥の会会員でもある私が小田原城址で見ることのできる野鳥について解説していきたいと思えます。第一回はガイドをする上で、皆さんに是非知っておいていただきたいことについてお話しします。

### ■冬鳥・夏鳥・留鳥

季節によって見られる鳥は異なります。秋には遠くシベリアなどから日本海を渡ってカモ類が日本にやってきます。冬、二の丸のお堀で見られるヒドリガモは冬鳥です。ヒドリガモの見分け方は簡単です。♂はおでこに黄色いおしろいを塗っています。一方、常盤木橋の近くの上空を気持ちよさそうに飛ぶツバメは夏鳥です。



二の丸お堀のヒドリガモ♂

春になって東南アジアなどから太平洋を越えて日本へ渡ってきます。この冬鳥・夏鳥というのは相対的な言葉で、ヒドリガモは日本から見れば冬鳥ですが、ロシアから見れば春に日本から渡ってきて、夏にシベリアで過すので夏鳥ということになります。これらに對して一年中、国内で見ることのできるスズメやカラスなどは留鳥といえます。

### ■野鳥が見られる場所

場所によっても見られる鳥は異なります。二の丸の水堀では留鳥であるカルガモを一年中見ることができま。また低空で飛行するツバメの姿も見ることができま。他方藤棚駐車場の周りにそびえるクロマツの樹上に目をやると、翼を休めるアオサギを見ることができま。



▲ 食事中的のカルガモ

◀ クロマツ樹上のアオサギ



ではなぜ場所によって見られる鳥が異なるのでしょうか。それは野鳥が生きていくために必要な四つの条件、採食・給水・休息・営巣

の条件が鳥によって異なるからです。水草の葉や種を食べるカルガモは水堀にすることが多く(採食条件)、ツバメは、嘴(くちばし)を水面に一瞬つけて水を飲みます(給水条件)。休息また営巣場所として安全な樹上を利用するアオサギは、クロマツの枝に止まることができることが多くなります(休息・営巣条件)。

### ■野鳥の大きさ

「ものさし鳥」という言葉があります。野鳥の大きさを推定するとき、予め基準となる鳥と比べて、同じくらい・少し小さい・少し大きいといったふうに使います。ものさし鳥とはこの大きさの基準となる鳥のことを指し、小さい方からスズメ(一四cm)、ムクドリ(二四cm)、キジバト(二三cm)、ハシボソガラス(五〇cm)の四種類があげられます。ここでカッコ内は全長を表しています。全長とは野鳥を仰向けに首を伸ばして寝かせたときの、嘴の先から尾の先までの長さをいいます。

ものさし鳥の中でスズメと「デッ・ポッポー」と鳴くキジバトは皆さんご存知かと思えますので、ここではムクドリとハシボソガラスについて少し紹介しましょう。ムクドリはよくお茶壺曲輪の芝生の上をトコトコ歩いて昆虫などをついばんでいます。鳴き声は



「ギヤーギヤー」と決して綺麗とはい  
えませんが。雨戸の戸袋に営巣する  
ムクドリを見つけた妻も「ギヤー」  
と悲鳴をあげていました。



食べ物を探すムクドリ

次のハシボソガラスですが、小  
田原市周辺ではハシボソガラスと  
ハシブトガラスの二種類が見られ  
ます。嘴の細いのがハシボソ、嘴  
の太いのがハシブトです。ハシブ  
トガラスはハシボソガラスより一  
回り大きく、全長は五六cmありま  
す。暮らす環境も異なり、ハシボ  
ソガラスが畑や河原など開けた場  
所を好むのに対して、ハシブトガ  
ラスは森林や街中を好みます。で  
すから城址公園周辺で見られるカ  
ラスはまずハシブトガラスです。  
自分が知らない鳥を見つけた場  
合、野鳥図鑑で調べることをお勧  
めします。その時、ものさし鳥と  
の比較で大まかな全長を把握して  
おけば、野鳥図鑑を引くときに見  
当をつける目安となります。

■野鳥の模様・形・色

目の前の野鳥が何であるのかの  
一番の決め手は、何といつても身  
体の模様・形や色でしょう。嘴の  
形・色は？翼の模様・色は？など。  
頭・目・胸・尾・脚など各部位ご  
とに特徴を把握しましょう。例え  
ば冬鳥のヒドリガモですが、♂の  
おでこは黄色、頭部は茶色、比較  
的大きな嘴は灰色でその先端は黒  
色、翼は灰色です。おでこの黄色  
が目立つ♂に対して、♀は全体的  
に茶色の地味な色をしています。  
女性が華やかな人間世界とは反対  
ですね。♂が色彩豊かなのは♀の  
気を引くため、♀が地味なのは子  
育ての際に天敵に襲われないよう  
目立たなくするためです。



地味な色のヒドリガモ♀

カモ類の♀はどれも似た色なの  
で最初は識別が難しいかもしれま  
せん。そんなときは♂の傍にいる  
♀は、その♂と同じ種の♀と見て

ほぼ間違いないでしょう。ヒドリ  
ガモの♂の傍には、ヒドリガモの  
♀がいるということでした。

■野鳥の声

その姿を見つけることができな  
くても、声を聞けばその鳥が何で  
あるかわかる野鳥がいます。たと  
えば「ホーホケキョ」と声が聞こ  
えれば、それはウグイスです。「チ  
ルチルミチル」と聞こえれば、そ  
れはメジロです。ちなみに相性の  
よい二つものを表すことわざに  
「梅に鶯」があります。梅の木  
にウグイスはまず来ません。早春  
の城址公園の梅の花の蜜を吸いに  
やってくる鳥は、眼の周りが白い  
メジロです。



梅の花の蜜を吸うメジロ

うぐいす豆とかうぐいす餅のあ  
の鮮やかな黄緑色は、ウグイスの  
色ではなくて実はメジロの色なの  
です。ウグイスは地味な茶色をし  
ています。昔の人が、ウグイスと

メジロを混同していたのかもしれ  
ません。

■野鳥の生態系の中の位置づけ

私たちが暮らすたった一つの地  
球には様々な生き物が暮らしてい  
ます。私たち人間もその一員です  
し、野鳥も生態系の一員を構成し、  
互いに関係し合って生きていま  
す。例えばヒヨドリはマンリヨウ  
の赤い実を食べ移動しフンをする  
ことで、種を遠くへ運び、緑を増や  
すことに貢献しています。スズメ  
はイネに付いた害虫を食べ、イネ  
が育ち、そのお蔭で私たちはおい  
しくご飯を食べることができま  
す。メジロは梅の花の蜜を吸うと  
きに、花粉を他の花へ運ぶことで梅  
の受粉につながり、私たちは梅酒や  
梅干しを食することができます。

■野鳥を観察

小田原城址をお客様にガイドを  
していく中で、出会った野鳥の解  
説を加えることができれば、ガイ  
ドの内容に厚みを持たせることが  
できるかと思えます。そのため  
はまず野鳥に関心を持つことが大  
切です。普段、身の回りで見かけ  
た野鳥の場所・その時期・大きさ・  
形・色そして行動を観察してみ  
てください。今まで見えていなかっ  
たものが見えてくるのではないで  
しょうか。次回はお堀端で見られ  
る野鳥に絞ってお話ししたいと思います。



## インタビュー企画 Playback おだわら

### 高梨町生まれ 城内高校に通う

第九回語り手 高木 雅子

#### ■生粋の小田原っ子ですね？

■ 実家は高梨町から宮小路へ通じる若松屋の場所で、戦災で焼失するまで「若松屋」の看板があったのを覚えています。慶応四年生まれの祖父は「沢山の人が亡くなったのだから、あまり人に言うな」と言っていたようですが、関東大震災で転落した列車から生還した逸話を持っています。先祖は小田原藩の藩士と聞いていますが、いつから若松屋に住むようになったのかは、父も私も未っ子なのでもう聞ける人がおりません。

#### ■昔の街並み、懐かしいですか？

■ 高梨町通りと宮小路通りには一メートルくらい段差があり、家の真ん中辺りに階段がありました。高梨町通りは大きな商店のある落ち着いた感じの通りで、宮小路通

りは家の前に富貴座があり、そば屋、小間物屋、芸者置屋も多く夜遅くまで賑やかで華やかな通りでした。松原神社の祭礼の日などは家に帰るのも大変で、小田原で一番賑わっていた所でした。

遊び場は海、水の公園（城址）、水源池、今は競輪場になっている小峯公園等々。小田原高校の林には昆虫が沢山。少し下った所に生木大黒。大久保神社の横には北村透谷碑がありました。競輪場ができて、景色は一変しました。

#### ■特に印象深い思い出は？

■ 現在のガイド協会事務所は図書館でした。本に夢中になって、頼まれていた煮物の鍋を何度も焦がしてしまふほど私は本好きだったので、よく借りに来ました。本棚の背側に粗い金網が張ってあり、読みたい本を指で押すとその本を係の人が取って貸してくれるシステムでした。

■ その後、図書館は中央公民館（現市民会館）入口付近の米軍簡易兵舎（カマボコ型の建物）を一時利用し、そして星崎記念館へと移りました。中央公民館入口付近に大型テレビが設置されていて、いつも人が集まっていました。

■ 学校は本町小学校、一中（現城山中）、城内高校とお城の近所に

通いました。城内高校は、その頃銅門の場所にあつて、事務所前の堀は埋められていて、土塁の近くまで校舎が建っていました。銅門辺りが講堂、ビヤクシンの辺りが音楽室だったと記憶しています。戦後の新しい教育ということで、楽しい学生時代を過ごすことができました。

#### ■最近のエピソードは？

■ 家の蔵に、夫の残した趣味の品があつて少しずつ整理しています。先日のこと、いま話題の人である渋沢栄一還暦祝いの記念写真をうっかり捨ててしまいました。

■ 四月には江戸時代の大判小判の見本額・樋口弥門書（と思われる）「宝永通宝」を二階の管理事務所に寄贈しましたが、その後どうなったのでしょうか？

#### ■ガイド協会への想い、お聞かせください

■ シルバー大学の歴史観光科は人気が高くて希望した年には入れなくて一年待ちました。そして先輩たちに倣うように協会へ入会しました。その頃は百人位いて先輩後輩関係に厳しい人もいました。今は皆さんフレンドリーですよ。

■ 企画としては北原白秋や川崎長太郎の文学、辻村農園、石垣山一夜城をよくやりました。川崎長太

郎は毎日家の前を通る変な人だなんて思っていたのが『だるま』にお昼を食べに行っていたことが分かり、ちよつと不思議な感じがありました。

■ いまの協会の方たちは立花隆さんの「知の旅」（いろいろなものに興味をもってさらに知りたがる）のような勉強家ですね。私は皆さんを尊敬しています。そして“お客様にいやな思いをさせないこと”をモットーに、“一期一会を大切に”今も人と会えるのが楽しみで協会に来ています。

（文責：編集部）



富貴座（小暮次郎画文集『小田原古きよき頃』より）

リレーエッセイ／わたしの城旅 ⑬

## 日本五大山岳城 月山富田城

岸本章

二十年ほど前のことになる。松江市で用事が出来たので、横浜駅から寝台特急「サンライズ出雲」で向かった。所用を済ました後、レンタカーを借りて目当ての安来市、山陰の覇者尼子氏の居城があった「月山富田城」へ飛ばした。



月山富田城太鼓壇に立つ  
山中鹿介幸盛の銅像

月山富田城の遺構に建造物はない。天然の地形を利用した縄張りには石垣や堀切が多く残っているが、これらの多くは尼子氏時代のものではなく、尼子氏滅亡後の城主・堀尾吉晴らによるもので、あの毛利元就を苦しめた尼子氏の城がどの程度堅固だったか不明であるが、難攻不落の城と呼ぶに相応しい城があったことは戦の記録が物語っている。道の駅に車を置き、少し山を登ると「山中御殿」跡という広場に着く。広場では地元の幼稚園児が大勢遠足に来ていて賑やかに遊んでいた。ここから七曲りという坂をジクザク登ると三の丸・二の丸・本丸と山頂部分に着く。標高は二百弱なのに眺望が素晴らしく、中海の向こうには「関の五本松」で有名な美保関まで見ることができた。

下山途中、立派な像が目飛び込んできた。当然城主であった尼子経久か晴久かと思ったら、尼子十勇士の一人「山中鹿介」だった。山中鹿介のほうが地元ではヒーローなのか……「願わくば我に七難八苦を与え給え」と三日月に祈り、尼子氏の再興を願って奔走したが叶わず、備中高梁の「阿井の渡し」で無念の死を遂げている。山中鹿介辞世の句とされる「憂き事のなおこの上に積もれかし限りある身の力ためさん」を思い浮かべながら、宿泊地・皆生温泉に車を走らせた。

## 【2021年企画ガイド予定】 申込み・お問合せ 0465-22-8800

	件名	日時・集合場所	参加費	コース
企画 ガイド	「総構」小田原北条氏の守り 意外と知らない街中の土塁跡	10月30日(土)約6km 9時30分～12時30分頃 小田原駅東口金次郎像前	700円	小田原駅～幸田口土塁～ 蓮上院土塁～少年院土塁跡～ 谷津御鐘台張出～小田原駅西口
	紅葉の阿弥陀寺で プロが奏でる琵琶演奏拜聴!	11/24(水)11/27(土)約2.5km 9時30分～12時30分頃 箱根湯本駅	1200円	箱根湯本駅～白石地藏～茶の花碑～ 阿弥陀寺(皇女和宮ゆかりの寺)～ 山門～深沢銭洗弁財天～塔ノ沢駅
	三茶人が愛した 板橋界隈の邸園めぐり	12月19日(日)約2.5km 9時30分～12時30分頃 箱根板橋駅	700円	箱根板橋駅～板橋地藏尊～ 松永記念館(老樗荘)～皆春荘～ 古稀庵～板橋見附～箱根板橋駅
まち 歩き	街かど博物館 小田原の匠をたずねる	10月5日(金)約3km 9時～12時30分頃 小田原駅東口金次郎像前	700円	小田原駅～柏木美術鑄物研究所～ 市内街かど博物館～松原神社～ なりわい交流館～三ノ丸ホール

- ・小田原ガイド協会ホームページでもご案内しております。
- ・新型コロナウイルスの感染状況等により、延期・中止の場合があります。

【六月以降の退会者】

中野茂男さん  
ありがとうございました

【編集後記】

■不急不要の外出自粛で在宅時間が多くなり、家で眠っている品の整理を行う機会が増えたが、中々物が減らない。服・本・書類・贈答品他、不用な身の回り品がぞろぞろ出てくるのに。後悔しない断捨離のコツを教わりたい。(M)

■先日、家の前に大きな橙色の斑模様毒蛇「ヤマカガシ」がいました。そこでトカゲに狩獵本能を引き出しにする我家の猫を濃厚接触させないため緊急事態宣言を発令、散歩自粛に。一日だけです。(知)

■先日久しぶりに御幸の海岸に行ってきました。海水浴場がオープンしてないため人は疎らでしたが、ちびっ子は無限ループの波に大はしゃぎ。ビーチで食べるアイスクリームも格別! やっぱ夏は海でしょう!(y.k)

■87号から季節のイメージカラーで統一しています。春は桃色・桜色。夏は浅葱色・萌葱色と継いで、今回は利休茶及び柿渋色です。中間色なので微妙な色合いが再現できないくらいがあり、残念。(U)

【編集委員】

飯田宗男 磯崎知可子  
上田信一 柏木由美子

## 令和3年度賛助会員

### 賛助会員のお店は皆様をお待ちしています！

賛助会員の皆様にはガイド協会の活動に賛同しご支援を頂いています。

賛助会員の詳細は小田原ガイド協会HPをクリックしてください。

<http://www.odawara-gaido.com>

☎ 0465-

鱒 壺 北 條	080-5465-0066
伊 勢 屋	22-3378
ういろう	24-0560
魚市場食堂	23-3818
江 嶋	22-1661
小田原種秀本店	22-6238
籠 清	22-0251
籠 常 商 店	23-1807
柏木美術鋳物研究所	22-4328
カネタ前田商店	23-4741
居酒屋 金 時	23-0721
幸 繁	22-5155
グリル 木の实	22-2912
さがみ信用金庫	24-3161
志村屋米穀店	24-2224
杉 兼 商 店	22-5051
鈴廣かまぼこ	22-2333
せきしん運輸	42-7375
田 毎	24-3030

☎ 0465-

田中屋本店	22-5545
だるま料理店	22-4128
欄干橋ちん里う	23-1547
露木木工所	22-5995
東 崑 庵	22-4657
鳥 かつ 楼	22-2078
菜 の 花	24-5688
箱根屋酒店	22-6416
小田原早川漁村	24-7800
平 井 書 店	22-5370
松崎屋陶器店	24-2479
マツシタ靴店	24-2233
万 葉 の 湯	23-1126
柳屋ベーカリー	23-2342
山市湯川商店	22-5637
山 安	21-1137
R Y O	20-0077
わらべ菜魚洞	22-4858

【50音順】